

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	天海 敦子	学校名	都・道・府・県 立 学校
担当教科等	家庭科	対象学年（人数）	9 年 C 組（27 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021 年 10 月 ～ 11 月（4 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：家庭科 住生活
2. 単元(活動)名：多文化共生と地震対策~国際化による多様な住まいのあり方を知る
<p>3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標</p> <p>授業テーマ：「地震大国日本で在住外国人の方と住むためのシェアハウスを企画せよ！」</p> <p style="padding-left: 20px;">多文化共生：多文化共生にめっぽう弱い日本人。僕たちが変わらなきゃ！</p> <p style="padding-left: 20px;">防災：防犯対策や地震被害はセコムと耐震性の高い住宅だけでは守れない！</p> <p style="padding-left: 40px;">◎国際化による多様な住まいのあり方を知る ◎多文化共生と地震対策</p> <p>単元目標(概念的理解)：協働的なシステムが持続可能な社会を作り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化の尊重 ・地球規模の課題はローカルな行動とともにある <li style="padding-left: 40px;">・SDGs のレンズを活用してジブンゴト化する <p>探究テーマ：地域協働を活用し、公正なシステムを構築することは持続可能な発展につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実に基づく問い —日本における多文化共生とは何か。 ・概念的な問い —日本人と外国人の間で共存(お互い静かに暮らせる関係)と共生(お互い協力する関係)が成立するか ・議論の余地がある問い —共生社会と災害という日本における2大課題を同時に解決するシステムの発展は可能か <p style="margin-top: 20px;">関連する学習指導要領上の目標：</p> <p>(1) 地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察を論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(2) 関連する MYP デザインのねらい</p>

(3) ・デザインの革新が生活、グローバル社会、環境にもたらす影響への認識を深めること
 他者の視点を尊重することを覚え、問題解決にはいくつもの方法があることを認識すること

(4) **家庭分野 わたしたちの住生活**

(7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活, 衣生活, 住生活の中から問題を見いだして課題を設定し, その解決に向けてよりよい生活を考え, 計画を立てて実践できること

4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	実社会の文脈に基づいた問題に取り組むため ・目的をもった学際的な理解を伝達する作品を制作する ・自分の作品が学際的な理解を伝達する方法を正当化する
	②思考力、判断力、表現力等	実社会の文脈に基づいた問題に取り組むため ・学問分野ごとの知識を情報源、作品、テキストの中で分析する ・学際的なものの見方を情報源、作品、テキストの中で評価する
	③学びに向かう力、人間性等	社会の文脈に基づいた問題に取り組むため 自分自身の学際的な学習の発展について議論する ・新しい学際的な理解がどう行動につながるかを論じる

5. 単元設定の理由・単元の意義
 (児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】SDGs への取り組み

【単元の意義】多文化共生と地震大国の震災の課題を”ジブンゴト”として考える

【学習者観】「途上国は貧しくてかわいそう」「途上国と先進国の課題は異なる」等の観を払拭する

多文化共生: 多文化共生にめっぽう弱い日本人。僕たちが変わらなきゃ!

防災: 防犯対策や地震被害はセコムと耐震性の高い住宅だけでは守れない!

【指導観】

Think Globally、Act Locally「地球規模で考え、足元から行動せよ」地球規模の課題はローカルな行動とともにあることに気づき、生徒の変容を促す

Give back and make difference!正解のない時代 1問いを設定 2失敗から学ぶ 3試行錯誤 3持ち寄り相互作用 4プロセスから生み出すアイデア

Globalization

地球環境問題と社会的問題の同時的解決を目指す! =持続可能で包容的な地域の構築 貧困・社会的排除問題(人↔人) 地球環境問題(人↔自然)

“他人ごと”→“自分ごと”化する!!SDGsのレンズを活用してジブンゴト化を進める

6. 単元計画(全4時間)

【授業内容】「地震大国日本で在住外国人の方と住むためのシェアハウスを企画せよ!」

【GRASPS】

Goal:太田断層が懸念される太田市で、日系ブラジル人と共存するシェアハウスを設計プレゼン
調査内容

- ①ブラジルの気候・風土、生活文化・習慣、住まい
- ②太田市の気候・風土、生活文化・習慣、住まい
- ③家の耐震性、地盤、地震対策、環境共生住宅
- ④共生社会において、すでに起こっている問題

Role: NGO 法人を設立 メンバー設定①日系ブラジル人②太田市民③建築士④NGO 法人 CEO

Audience: 太田市長と市民

Situation: 1 群馬県:大泉町ブラジル人街 2 地震想定:太田断層

Performance:太田市が抱える2つの課題を同時に解決。

Standard:プレゼン評価

【課題】

- ・グローバルシェアハウスに関する調査を行い家づくりのコンセプトと規準を示す。また、設計図をGoogleSlide にまとめる
- ・振り返りシート

【詳細】

- ・グループ4名で次の①～④を手分けして調査する。それらの調査を元にグローバルシェアハウス設計図(6名入居可能、リビング、キッチン、トイレ、風呂は必ず含むこと)を各自で作成。
- ・スライドは各自1部を作成する。(内容はグループでシェアする。①～④はコピーでもよいが、自分なりのスライドにアレンジすること。グローバルシェアハウス設計図は話し合いながら各自まとめる)

- ①NPO 法人名称、スローガン、ビジョン、ミッション
- ②ブラジルの気候や風土、生活文化・習慣について
- ③太田市の気候や風土、生活文化・習慣、地震太田断層について
- ④耐震性住宅について
- ⑤共生生活において、現在すでに起こっている問題点の具体例について
- ⑥シェアハウス設計図
- ⑦シェアハウス概要と説明

【ヒント】


- a.一緒に住むためのルール(ゴミ出し、掃除、冷蔵庫の使い方、消耗品の管理等)
- b.地震対策(耐震性住宅、備蓄・防災グッズ、家具転倒防止等)
- c.誰もが住みやすいシェアハウスとは ・安心面(ソフト面) ・安全面(ハード面)

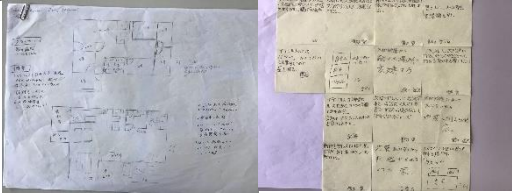
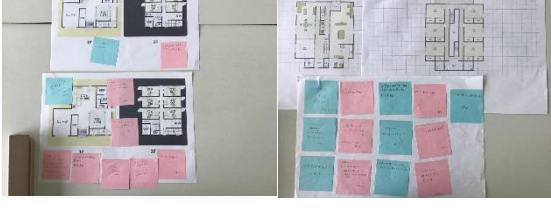

	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	自分ごと化	NPO 法人設立を仮定し課題を現実的に捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の説明 ・グループ分けと役割決め <ul style="list-style-type: none"> ①ブラジル人 ②日本人 ③建築士 ④NGO 法人 CEO(リーダー) ・NPO 団体名称、スローガン 	<ul style="list-style-type: none"> PC スライド資料共有 グループ分けくじ引き

2	探求	多文化を調査する。 地震対策を調査する。	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフ調査 ・【NPO 団体 meeting】各メンバーの調査内容を共有。チームの方針を理解し、同じ目標を目指し調査開始。 ・【エキスパート meeting】他者の調査内容を参考に、不足部分を追加。 ・【NPO 団体 meeting】 エキスパート会議で新規情報を加え、さらに改善する。 	A3 サイズ方眼紙設計図 付箋 PC
3 本時	ニーズ調査	実際の声を聞くことの大切さ。ニーズに答える。自己満足にならない設計企画する。	<ul style="list-style-type: none"> ・【NPO 団体 meeting】各メンバーの調査内容を共有。既存調査を参考に計画を立て、試作する。 ・【エキスパート meeting】他社の調査内容を参考に、不足部分を追加する。 ・【NPO 団体 meeting】 エキスパート会議で新規情報を加え、さらに改善する。 	動画 プロジェクター
4	まとめ	スタッフ全員の意見を尊重し、完成・発表する。	・【完成品報告会】スライドプレゼン 各団体5～7分以内	

7. 本時の展開(3時間目)

本時のねらい: 他者の視点を尊重することを覚え、問題解決には多様な方法があることを認識する
多文化交流を通して、情報だけでなく、人との繋がり的重要性に気づく

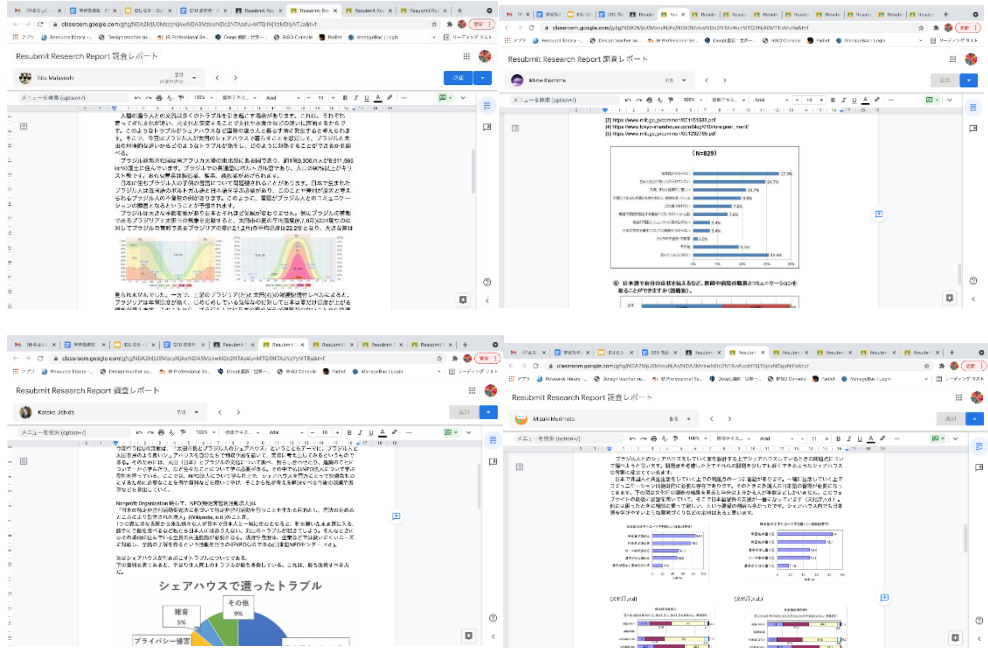
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
Intro	<p>前回の説明、ブラジルのセシリア先生へのインタビュー動画 (10分)</p>  <p>【NPO 団体 meeting】(5分) 各メンバーの調査内容を共有。チームの方針を理解し、同じ目標を目指す。</p>	<p>本時は一緒に住むためのルールや多文化への思いやりなどソフト面について考える機会を与える。</p>	

<p>discuss ①</p>			
<p>activity ②</p>	<p>【エキスパート meeting】(5分) 他者の調査内容を参考に、不足部分を追加する。</p> <p>【NPO 団体 meeting】(5分) エキスパート会議で新規情報を加え、さらに改善する。</p>	<p>グループメンバーを全員が発言し、参加できているか。 誰が中心にまとめているか。 興味を持って取り組んでいるか。</p>	
<p>discuss ③</p>	<p>【各社視察 visiting】(7分) 他社の完成品を視察する。参考にできる点を見つける。Feedbackを残す。</p>	<p>全員が発表しているか。</p>	
<p>activity ④</p>		<p>スムーズに意見交換をできているか。 ファシリテーターは誰が率先して行っているか。</p>	
<p>discuss ⑤</p>	<p>【NPO 団体 meeting】(10分) 交流で得た情報をまとめる。</p>	<p>エキスパート会議で得たことを正確にメンバーに伝えることができているか。</p>	
<p>Close</p>	 <p>次回予定</p>	<p>他社の作品を視察し、インプットできているか。 他社の作品に対し、的確なフィードバックを与えることができるか。</p>	
		<p>視察内容を共有することに協力的か。</p>	

		視察で得たフィードバックを有効に活用できるか。	
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 グループワーク 他者の意見を尊重することができるか 自分の調査を正確に伝えることができるか 仲間の意見をまとめることができるか			
9. 学習方法及び外部との連携 近隣校ブラジルピタゴラス学校、中高生との交流授業、ABC ジャパンの協力			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 アフタースクール初心者ポルトガル語講座(全 10 回)の開催(ABC ジャパン群馬支部代表セシリア先生) 生徒 18 名+先生 4 名の参加			

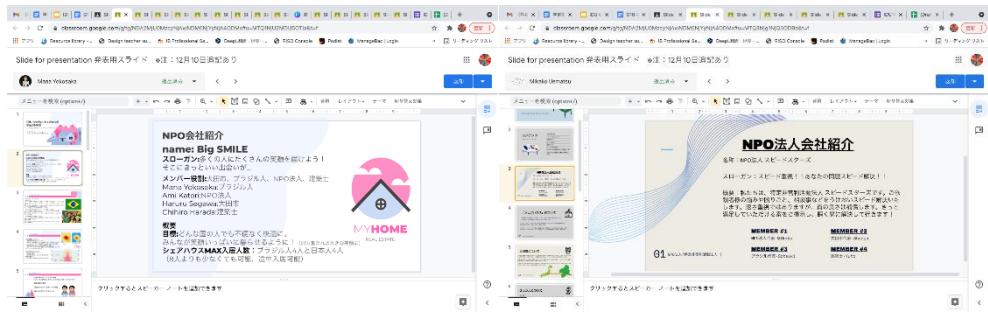
【自己評価】

11. 苦労した点	コロナ禍により、ゲストによる対面講話や生徒同士の交流が不可能であったことが、一番苦労しことです。JICA 研修のおかげで近隣のブラジル学校と接点を持つことができたにもかかわらず思うように授業に加えることができませんでした。
12. 改善点	ポルトガル学校の生徒たちからニーズを聞き、交流を深めるきっかけを作りたいかったのですが、来校不可能とのことで、急遽、セシリア先生の協力を得て、zoom で質問動画を撮り、授業で使用しました。
13. 成果が出た点	ブラジル人のリアルな声は、資料やインターネットだけのリサーチに現実感を持たせ、納得いく授業になりました。JICA さんのおかげでブラジル学校との教員同士の繋がりができたことで、今後も交流を続けたいです。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	生徒成果物例 レポート内容

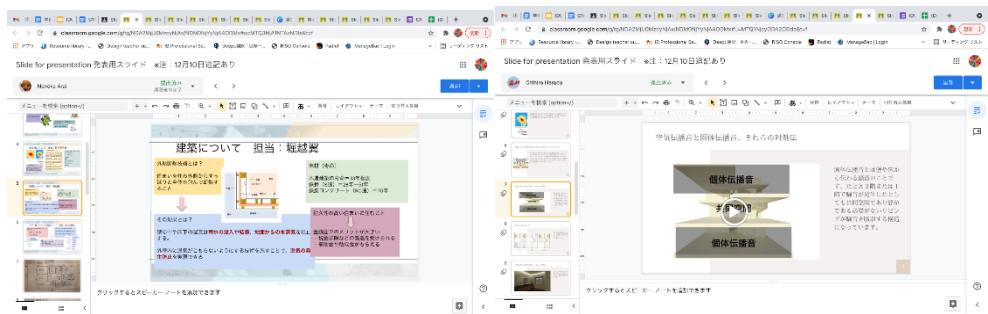


スライド内容

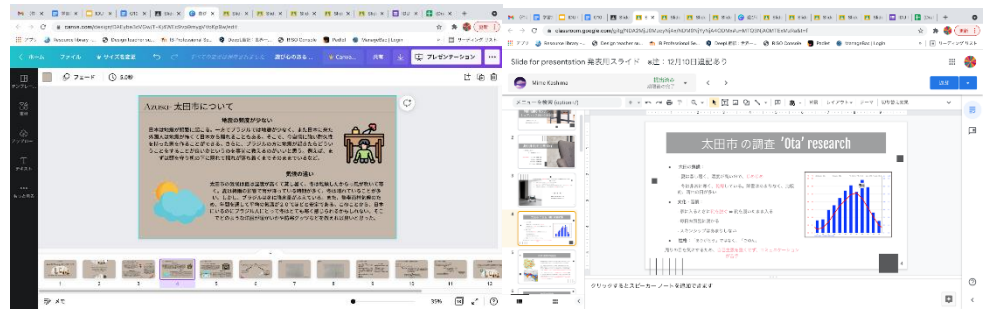
NPO 法人設立



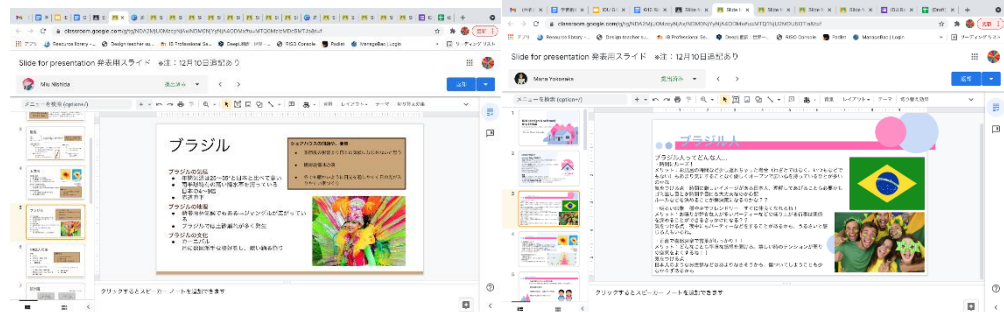
建築について



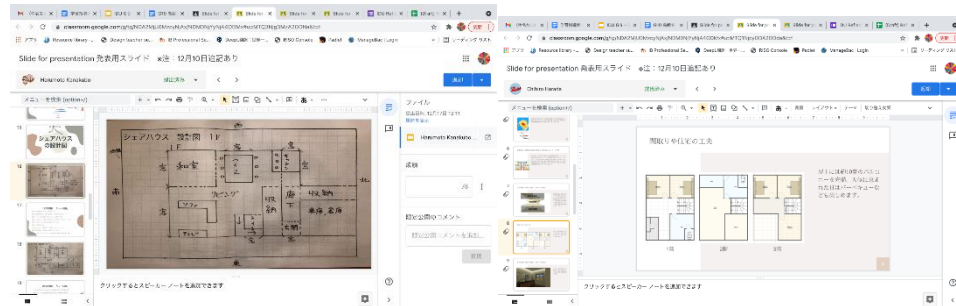
太田市について



ブラジルについて



設計図



生徒リフレクション

F1H1	C	D	E	F	G	H
1				あなたのプレゼンテーションは、学際的な理解（家庭科、理科に対する理解）をどのようにして伝えていますか？プレゼンテーションの中から根拠を示しながら、詳しく述べてください。（目安：150文字～200文字）	①今回の学びによって、あなた自身の中で学際的な学習がどのようにつながりましたか？議論し、詳しく述べてください。（目安：150文字～200文字）②How has this learning helped you to develop interdisciplinary learning in yourself? Please discuss and elaborate. (roughly 75words~100words)	②今回の学びが、今後の学びにどのように繋がると考えますか？主張、そのように考える理由、前提としていることなどを明確にしながら議論し、詳しく述べてください。（目安：150文字～200文字）③How do you think this learning will lead to future learning? Please discuss and elaborate, stating your main claim, reasons for your claim, and assumptions you have. (roughly 75words~100words)
22	B	8	黒崎美恵	私のプレゼンテーションでは、スライド2、3、4でブラジルと日本の特徴や文化の違いを述べて、スライド6でどのようなルールがあったら両方が住みやすいシェアハウスとなるかを書くことで家庭科に対する理解を伝えている。理科に対する理解は、スライド7と8のシェアハウスのキャッチコピーの客観的・定量的説明を書くことで伝えている。	今回の例で言うと、シェアハウスというテーマは家庭科とつながりはないとなく想像がつくが、理科が関わっているとは思えない。しかし、もう少し深く考えてみると、客観的・定量的説明というところまで理解することができた。このように、今回の学習で、一見関係なさそうなテーマでも複数の教科につながって説明することができると知った。	私は、今回の学際的な学びが、今後になにかを比較するときなどの私の考え方や分析につながることを考える。なぜなら、今回で別れたように、一見関係なさそうなテーマでも意外なつながりがあることを知ることができた。なので、今後の学校の課題などで詰まるとき、全然違うものも考慮して考えてみることで視野が広がると思うから。
23	A	22	Kotoko Uchida	2のスライドでは私たちのNPO法人に関する情報を、3～6のスライドでは各メンバーが自分の役割について書いたことを、7～13のスライドではシェアハウスの詳細についてを、14～15のスライドではシェアハウスのキャッチコピーとその理由や量化的について詳しく伝えることができていたと考える。特に、7～13ではシェアハウスのハード面を伝えるながらもソフト面を最後に付け加えるように伝えるという工夫を使用して伝えることができた。	家庭科の面では、他の国の文化に対する知識を得ることができた。私は、他の国の文化にとても興味があったので、まだ知らずにいた国についてこれほど詳しく知ることができた。私の持つ理科の知識を増やすことができた。	この活動で得た学びは他の国へ行ったときとても役に立つと感じた。自分の国について知ることも大切だが、他の国で滞在するようになった時に少しでもその国に関する知識があるとなかなかに役立つ。私がオーストラリア留学に行く前、学で学ばなかったオーストラリアの食文化、語彙に「please」と付け足すマナーなど沢山の調べをしました。そのおかげで実際にホストファミリーや学校の先生、友達と自然になじむことができた。そのため、ブラジルについての情報も私の役に立つと考えた。
24	B	6	金井銀燧	例として、自分の調査内容のスライドと、シェアハウスの適性性についてのスライドについて分析する。まず、自分の調査では、今のシェアハウス社会で何が起きているかを調査し、自分の考えを踏まえて客観的・定量的なデータを用いて説明し、自分の客観的・定量的なデータを用いて説明し、理科的・客観的・定量的なデータを用いて説明することができた。	家庭科では、何か問題について調査する時に、そのことについてどのような考えを自分を持っているかを尊重していたため、客観的・定量的なデータを用いることができなかった。ただ、今回の課題では、数値的・定量的なデータを用いて、それが理科で行ったような分析や判断の能力が働いていると考えることができた。これからの能力を実生活で利用することができるものだと感じることができた。	普通の教科での調査学習などは、その教科のみの知識の応用等が求められる事が大半であるため、その教科のみに焦点を当てて、応用への理解をすることができた。しかし、今回の学習では、家庭科と理科という別の単元を繰り返す活動をしたため、様々な応用が必要になる場面があった。具体的に説明するに当たっては、その場面に合わせたような視点で考えることができた。
25				私のプレゼンテーションでは学際的な理解を家の設計や多様性、そして国と国の交流などを学ぶことで理解を深めたと思います。スライドの4と6を主に理科から取り入れて、スライド3と5には家庭科を取り入れた。このものを用いて自分の理解を深めることに役立ちました。理科で得た学びが、今後の学びに繋がると考えます。	日本と外国の文化や生活習慣の違いなど太田新居や筑波などの国際的な交流を学ぶことができたと思う。ブラジル人と日本人の性格の違いや生活習慣の違いをどう見つけてそれをどう活かすかに解決することができた。一つのことに対して様々な視点から、学びのつながりを感じることができた。	多文化の理解と多様な解決への働き方などに今回の学びが繋がると思う。ブラジル人は大声で話しかけるなどではなく、その大きな声などという観点で見ると大切だと思ふ。これからは社会に近づいていって理解しなくてはならないものが多いと思う。自分の力を使って、多様な解決策を見出すことが大切だ。

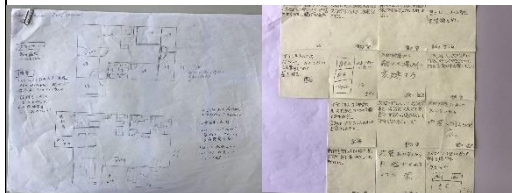
15. 授業者による自由記述

前回の説明、ブラジルのセシリア先生へのインタビュー動画 (10分)



【NPO 団体 meeting】(5分)

各メンバーの調査内容を共有。チームの方針を理解し、同じ目標を目指す。



【エキスパート meeting】(5分)

他者の調査内容を参考に、不足部分を追加する。

【NPO 団体 meeting】(5分)

エキスパート会議で新規情報を加え、さらに改善する。

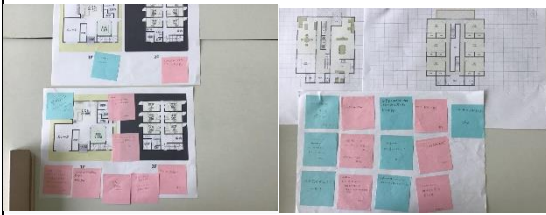
【各社視察 visiting】(7分)

他社の完成品を視察する。参考にできる点を見つける。Feedbackを残す。

本時は一緒に住むためのルールや多文化への思いやりなどソフト面について考える機会を与える。

グループメンバーを全員が発言し、参加できているか。
誰が中心にまとめているか。
興味を持って取り組んでいるか。
全員が発表しているか。

作成動画



【NPO 団体 meeting】(10 分)
交流で得た情報をまとめる。



次回予定

スムーズに意見交換
をできているか。
ファシリテーターは誰
が率先して行っている
か。
エキスパート会議で得
たことを正確にメンバ
ーに伝えることができ
ているか。

他社の作品を視察し、
インプットできている
か。
他社の作品に対し、的
確なフィードバックを与
ることができるか。

視察内容を共有するこ
とに協力的か。
視察で得たフィードバ
ックを有効に活用でき
るか。

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

グループワーク 他者の意見を尊重することができるか
自分の調査を正確に伝えることができるか
仲間の意見をまとめることができるか

9. 学習方法及び外部との連携

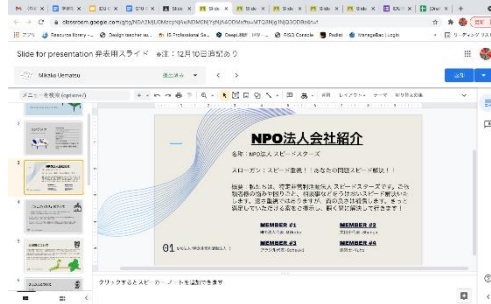
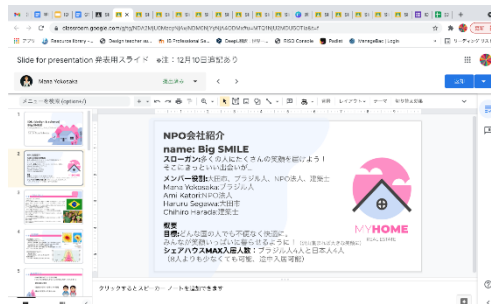
近隣校ブラジルピタゴラス学校、中高生との交流授業、ABC ジャパンの協力

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

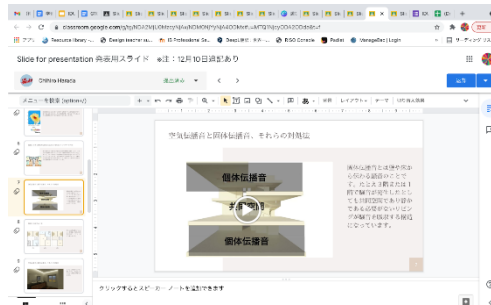
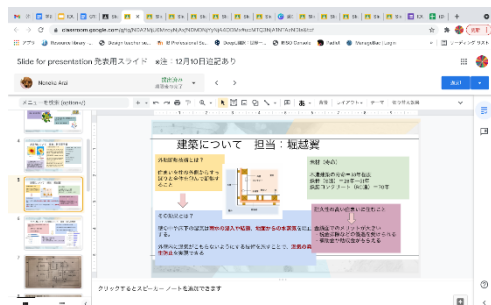
アフタースクール初心者ポルトガル語講座(全 10 回)の開催(ABC ジャパン群馬支部代表
セシリア先生)生徒 18 名+先生 4 名の参加

【自己評価】

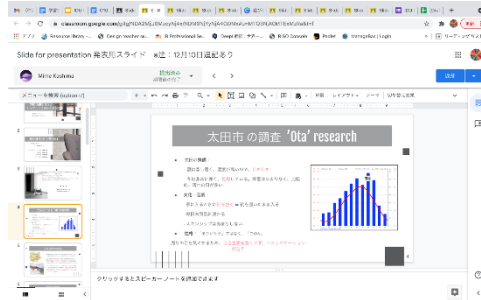
		<p>コロナ禍により、ゲストによる対面講話や生徒同士の交流が不可能であったことが、一番苦勞しことです。JICA 研修のおかげで近隣のブラジル学校と接点を持つことができたにもかかわらず思うように授業に加えることができませんでした。</p>
		<p>ポルトガル学校の生徒たちからニーズを聞き、交流を深めるきっかけを作りたいかったのですが、来校不可能とのことで、急遽、センリア先生の協力を得て、zoom で質問動画を撮り、授業で使用しました。</p>
		<p>ブラジル人のリアルな声は、資料やインターネットだけのリサーチに現実感を持たせ、納得いく授業になりました。JICA さんのおかげでブラジル学校との教員同士の繋がりができたことで、今後も交流を続けたいです。</p>



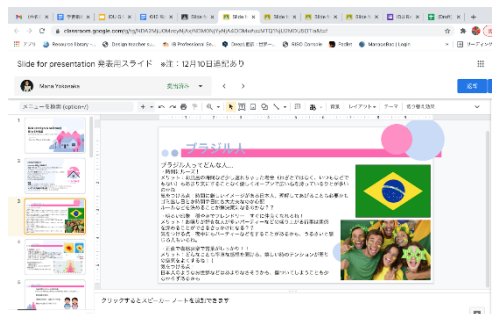
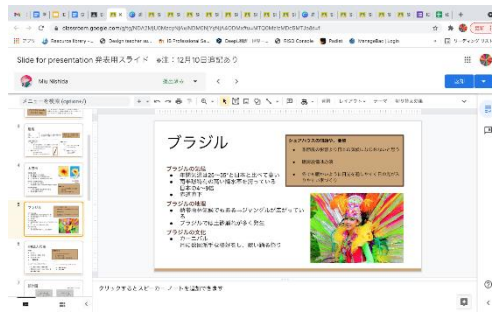
建築について



太田市について



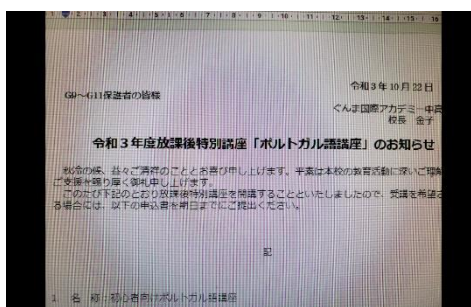
ブラジルについて



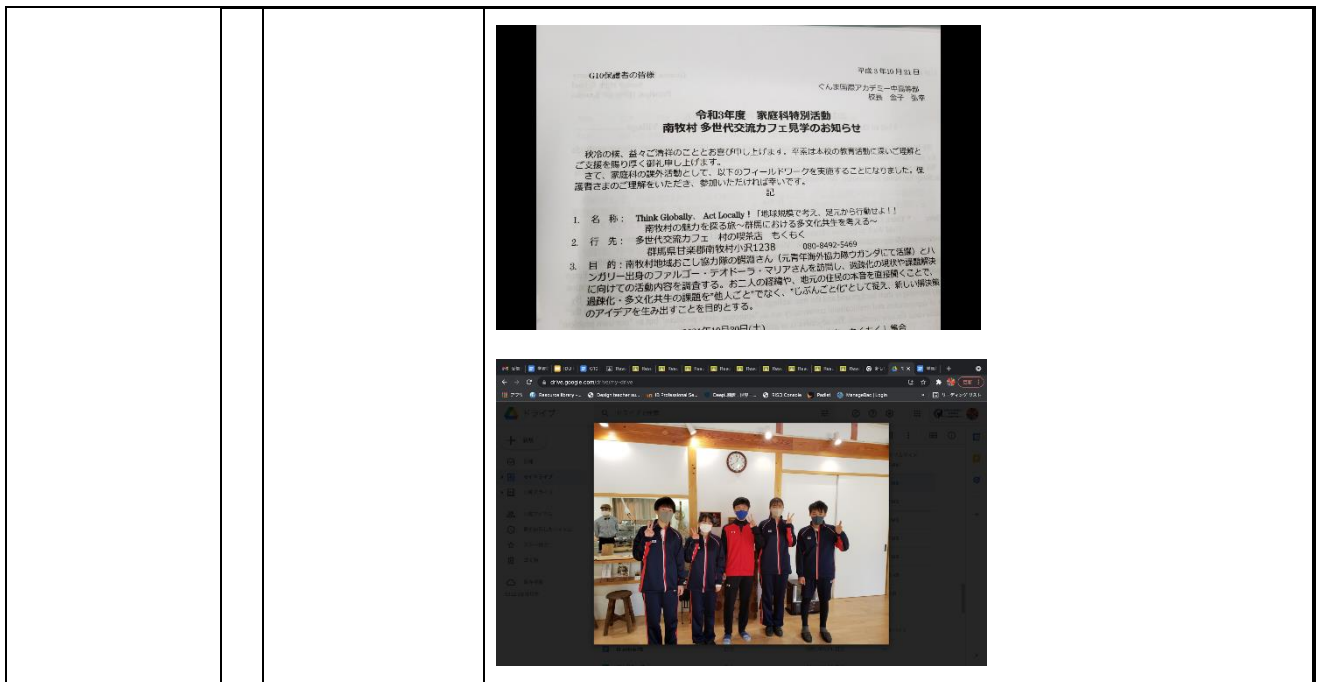
設計図

JICA 研修は、私自身にとって学びの多い、そして考えさせられる内容のものが多くありました。毎回モヤモヤとした気持ちを残して、帰ってから調べたいと感じさせるテーマばかりでした。この授業では、私が学んだことを教えるというスタイルではなく、自分が JICA 研修で感じたこのモヤモヤ感を、生徒と共有し一緒に共感してもらおうと思いました。生徒と一緒に授業を作る授業展開になりましたが、それがかえって生徒には響いたようで興味を持って楽しく取り組んでくれたように感じます。

研修の成果は、今回の中学生の授業だけでなく、色々な場面で生かされました。まずポルトガル語講座(全 10 回)の開催が決まりました。中高生 17 名が参加しています。言語だけでなく、文化にも興味を持って取り組んでくれています。写真はブラジル料理を ABC ジャパン群馬支部代表セシリアさんから教えてもらった時のものです。この学びによって、生徒たちが近隣地域に住む移民ブラジルの方たちとの交流に貢献できる生徒に成長することを期待しています。



高校生の授業では、群馬県の地域創生問題をテーマに課外活動を行いました。JICA 群馬の宮田さんの協力を得て、地域おこし協力隊の鰐淵さん(JICA 協力隊としてウガンダで活動)とハンガリー人のテオさんを紹介していただき、日本で一番消滅の可能性が高い村として有名な南牧村に視察に行ってきました。村の深刻な問題を二人から、さらに村の観光課長さんや地元の高校生からも直接聞くことができました。私が JICA 研修で感じた刺激や”モヤモヤ感”を生徒たちも感じて帰ってきたようです。同じ群馬県民として南牧村の課題を”じぶんごと”化できたのではないかと思います。今後の彼らの活動が楽しみです。



参考資料：「一人暮らしと4人家族の光熱費を比較してみよう！」総務省統計局「家計調査 家計収支編 2019年世帯人員・世帯主の年齢階級別」

・芝園かけはしプロジェクト <https://shibazonokakehashi.org/projects/>

・「隣近所の多文化共生」の課題－芝園団地の実態と実践から https://thinktank.php.co.jp/wp-content/uploads/2021/03/policy_v15_n80.pdf

クルド人問題、グローバル・イシューズ主任研究員 松本 弘、日本国際問題研究所 https://www2.jiia.or.jp/RESR/keyword_page.php?id=14

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどを JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>